

平成 27 年度生徒指導集中対策指定校及び生徒指導実践指定校 「特別活動の取組事例」

学校名	広島市立落合中学校	校長氏名	原之園 和弘	生徒指導主事氏名	渡邊 陽一
-----	-----------	------	--------	----------	-------

取組事例名 『スーパーキラキラ大作戦』

取組のねらい『自己有用感の向上』

- ・ 小中学生が一緒に活動し、ふれあいと心の交流を深める。
- ・ 中学生が小学生をリードすることで、生徒の自己有用感を高める。

取組の具体的内容『異年齢集団でコミュニケーション能力を育成』

- ・ 中学校 3 年生と学区の 2 つの小学校の 3・4 年生が 5 名前後でグループを組み、地域を掃除する。
- ・ 中学生がそれぞれのグループのリーダーとなり、事前に地図を見ながら清掃のルートを考えてとともに、小学生と一緒に行動するにあたってのコミュニケーションスキル（あいさつ・身なり・言葉・態度）を学ぶ。
- ・ 当日は、グループごとにゴミ袋と火ばさみ等を持ち、一時間程度地域を回ってゴミを拾う。
- ・ ゴミを拾った後に、各小学校に戻り、ゴミを分別する。



- ・ 事後に振り返りをそれぞれ行うとともに、お互いに手紙を書いて交換する。
- ※ この取組は、9 年前に学区の小学校が地域清掃をする際に、中学生にも協力してほしいという願いを受け、スタートした。現在まで継続して取り組んでいる行事である。

取組の課題・創意工夫 『事前・事後の指導』

- ・ 事前に小学生の代表数名が中学校を訪ね、中学生に協力を依頼する。中学生にとっては「頼りにされている」という気持ちを持って行事に取り組んでいる。
- ・ 事後に振り返りをさせるとともに、お互いに手紙を書いて交流を深めた。
- ・ 9 年間継続した取組であり、一つの伝統的な行事となっているが、形骸化が見られる。

取組の成果（効果）『地域を知る 行事の継承』

- ・ 課題のある生徒も小学生との会話を楽しみ、手を繋いで歩くなど、非常によい表情で小学生とともに活動することができた。
- ・ 小学生に頼られることで中学生が自己有用感を高めることができた。
- ・ 小学生の時に「スーパーキラキラ大作戦」を経験した生徒は、立場が変わって、中学生として参加することで、責任等を再確認できた。
- ・ 地域を一緒にまわることで地域の様子を知ることができた。
- ・ 小学生にとって「頼れるお兄さん、お姉さん」といった理想の『中学生（上級生）像』を描くことができた。
- ・ 異年齢の集団との関わり方、コミュニケーションのスキルを身につけることができた。

【生徒の感想より】

- ・ 4年生とは、自分が小6の時に遊ぶなどして仲がよかったから、みんな知っていたし、覚えてくれていたのでうれしかったです。
- ・ 小学生が勝手に行動したり、言うことを聞いてくれなかったり、ちょっと大変だった。でも小学生と仲良くなれて良かった。
- ・ 自分もこんなだったのかなと思うこともあった。小学生の元気にふりまわされたりもしたけど、良い経験になったし、楽しかった。

【この行事でわかったこと・成長できたこと（生徒アンケートより）】

- ・ 小さな子への接し方が分かった
- ・ 相手に合わせることの大切さに気付いた
- ・ あいづちの大切に気付いた
- ・ ちゃんと向き合えば応えてくれることに気付いた

今 後 の 展 開『地域行事との連動』

- ・ 12月にふれあい活動推進協議会主催で地域清掃を行っている。中学生は部活単位でボランティアとして参加しているが、この「スーパーキラキラ大作戦」での交流をきっかけに小学生も誘いながら参加できるような状況となれば理想的である。

他校へのアドバイス『他の行事との連動』

- ・ 自己有用感の低い生徒が多いため、小中連携の中で、中学生としての誇りを持たせることを特に意識した。
- ・ 小中連携が単発の行事で終わらないように、夏休みに小学校の補習の手伝いをする「サマースタディサポート」や合唱祭前に小学校に合唱を披露する「出前合唱」など一連の行事として取組を進めた。